令和８年度９月　秋卒業式　式辞

本日は、卒業おめでとうございます。

令和８年９月の学位記授与式では、８名に学士、１名に修士、３名に博士の学位記を授与しました。今までの大学での研鑽の結果、学位を取得されたことを、お慶び致します。

学位の取得とは，学士、修士あるいは博士の課程において、学位授与の方針（ディプロマポリシー）の内容を達成したと教授会等で認められたということです。とくに大学院では、博士論文あるいは修士論文の審査に合格したことを意味しますので、大きな意義を持っているとお考え下さい。

さて、昨年までは、秋卒業の時期がなぜ 9 月なのか、9 月卒業の問題点についてお話しましたが、今年は別の話をしたいと思います。

このところ、人工知能 (AI) の開発と普及がすすみ、大学での学習において、さらに世の中での仕事において、おおきなインパクトを与えるようになってきました。そのなかで、AI 研究の最先端を担っているグーグルなどに代表される IT 企業の研究者から、学術論文の発表が異常に少ない点が批判されてきました。今年、グーグルに所属する研究者から Nature の 8 月 12 日号に論文発表がなされています。ただし、論文が投稿されたのは 2025 年の 1 月で、査読を経て 2026 年 6 月に受理されたもので、2 年前の状況を反映しているに過ぎません。

内容は、AI エージェントについてで、いくつか注目すべき内容がありました。一つは、AI には種類があり、ゲーム環境で働くものから、

自律的なAI（いわゆるAIエージェント）、自動車の自動運転まで、AIには種類があることを明確に認めています。さらに、「思考の連鎖」による自己修正や、人が介入できる程度の違い、AIが他のAIを教育したり他のプログラムを使ったり、AI同士が話し合う仕組みの存在を示唆しています。ただし、詳細は明らかにされていません。

そのなかで注目すべきことは、大きな課題に取り組むにあたっては、それに関連する小さな課題を複数設定し、それぞれの解決法を見出してから、大きな課題の解決法につなげる方式が行なわれているようです。これは、まさに人間が行なっている思考の基本であり、課題の設定が重要であることを、改めて認識させられました。

ところで、３月の卒業式では多くの人が出席し、卒業する人全員に直接学位記を手渡すことができません。本日の秋卒業式では、ひとりひとりに学位記を手渡すことができました。皆さん自身としても、所属や年齢、専門の違う人とともに、学位記を受けるということは、貴重な体験だったのではないでしょうか。

本日は、卒業／修了　まことにおめでとうございます。この卒業式をひとつの節目として、それぞれの進路をめざしてください。皆さんの今後のご活躍をお祈りしています。

令和８年９月３０日

静岡県立大学長　今井　康之